

**平成28年度 事務事業評価シート**

事業の概要	事務事業名	文化財啓発事業						担当部	教育委員会事務局		
	会計区分	一般会計			事業類型	一般事業			担当課	文化振興課	
	事業期間	平成19年度			～	平成31年度以降			担当係	文化財係	
	総合計画 新基本計画	施策等	4 教育文化		15 文化振興		3 小牧固有の歴史・文化遺産を保全・活用します				
			重点事業		実施計画事業						
	予算区分	款	10	項	5	目	6	大	2	中	2
	根拠法令・個別計画	文化振興ビジョン									
	目的	何・誰を対象に	市民共有の財産である小牧固有の歴史・文化遺産								
		どのような状態にするのか	文化財の発掘調査だけでなく、講座や講演会を開催することにより、将来にわたって継承する。								
	内容(手段) 目的達成のためにどのような事業を実施したか	<p>◆27年度実施内容</p> <p>○文化財啓発事業調査研究委託 埋蔵文化財以外の文化財の調査や、利活用を含めた下記の啓発事業を学校法人 足立学園(愛知文教大学)に委託して実施した。職員は委託業務に関する諸手続きや、講座の受講受付や広報、会場の調整等を行った。</p> <p>【内容】 歴史講座 7回 延べ1,058名受講 古文書入門講座 計13回 延べ531名受講 歴史基礎講座 3回 延べ150名受講 終戦70周年記念事業 ・記念講演会 1回 163名受講 ・戦争中・終戦後の体験を聞く会 3回 延べ43名参加 ・戦争にまつわる品々の展示会 平成28年7月18日～8月2日 延べ821人来場 文化財資料の整理 他</p> <p>○信長・夢フォーラム開催委託 近年の発掘状況や調査成果を広く周知し、史跡小牧山の歴史的価値を見直すとともに、貴重な文化遺産をどのようにして守り活用しながら後世に引き継いでいくのかを啓発することを目的に開催した。 こまき信長・夢フォーラム3「緊急報告 石垣で語る小牧山城」 平成27年9月26日 小牧市市民会館ホール 約700人来場 内容:小牧山城主郭地区発掘調査成果報告、記念講演「小牧山城の歴史的意義」、トークセッション テーマ「石垣で語る小牧山城」</p> <p>◆27年度直接経費の内訳 文化財啓発事業調査研究委託(15,000千円) 信長・夢フォーラム開催委託(2,750千円)</p> <p>◆28年度直接経費の内訳 文化財啓発事業調査研究委託(15,000千円) 信長・夢フォーラム開催委託(3,000千円)</p>									
受益者負担	無										

		単位	H25決算額	H26決算額	H27決算額	H28予算額		
コスト	費用	直接経費		千円	20,807	17,500	17,750	18,000
		正職員	従事者数	人	0.15	0.15	0.15	0.15
	人件費		千円	825	825	825	825	
	その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	
		人件費	千円	0	0	0	0	
	費用合計		千円	21,632	18,325	18,575	18,825	
対前年比		%		84.7	101.3	101.3		
財源	一般財源		千円	21,632	18,325	18,575	18,825	
	国・県支出金		千円	0	0	0	0	
	その他財源		千円	0	0	0	0	

業	活動指標名	単位		H25	H26	H27	H28
	績	講座回数	回	目標	25	20	20
実績				22	21	23	
	古文書調査	回	目標	—	—	—	—
			実績	14	4	0	
	成果指標名	単位		H25	H26	H27	H28
			受講者数	人	700	1,000	2,700
	調査目録の発刊	冊	目標	—	—	—	—
			実績	1	1	0	

事業の自己評価	平成27年度の実施結果	事業の達成状況	各種講座等を開催することにより、多くの市民に歴史に関する興味関心をより高めることができた。				
		事業実施における課題	古文書講座や歴史講座の受講者は高齢者が多く、また受講者が固定化されている傾向がある。市内の文化財に対する意識啓発を図るために若い世代や中高生、小学生を含めた親子対象の講座を開催についても検討する必要がある。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	市民に対して小牧固有の歴史や文化財への興味関心を高める機会が減少するため、貴重な文化遺産を後世へ継承することが難しくなる。				
	平成28年度の改善内容	28年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	今年度より、平成27年11月20日付けで策定された「講座等の開設及び運営に関する指針」に基づき、文化財啓発事業調査研究委託による講座は、受講料を徴収し、受益者に負担を求めることとした。				
平成29年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)				
	判定理由	大学という専門機関の技術やノウハウを活用し、官学一体となって事業を行うことで、官学提携の協働を推進できるため。また、史跡小牧山を中心とした市内の貴重な文化遺産をどのように守り活用し、後世に引き継いでいくかを啓発していく必要があるため。					
	29年度以降の改善案	引き続き文化財の調査や研究を積極的に実施し、今後も市内外また、幅広い世代に向けて啓発・情報の発信を進める。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	縮小	事業内容について精査するとともに、講座開催事業については、小牧市講座改革検討結果報告書を基に改善に取り組むこと。